

一般社団法人 柏法人会会長賞

税とどう向き合うべきか

柏市立手賀中学校 第三学年 村木 ころろ

みんなの生活をより豊かなものにするために「税金」は不可欠である。そのため、税金に約五十もの種類があるのは当たり前だと思う。私は、そのたくさん税金の中で、国の歳入総額の割合で見ても、商品の販売やサービスの提供に対してかかる税金である消費税に続き、二番目に多い「所得税」について詳しく調べてみた。

所得税とは、会社からもらった給料や自分で商売をして稼いだお金などにつく税であり、退職するときにかかる退職所得や、給料をもらったときにかかる給与所得など全て合わせて十種類ある。税の種類で分けた所得税の中に、更に種類があり、税金の幅広さに驚いた。

ある、所得税の「累進課税」についてのニュースを見ていたときのことだった。父が、「累進課税制度がなければ大金持ちなのになあ。」と言った。どういうことかと父に聞いてみたところ、

「所得税での累進課税制度は、所得した金額によつて、所得税率を、みんなが平等になるように変えるというものだから、給料が高い仕事に就いても、その給料に合わせた割合で税がついてしまうんだよ。」

ということだった。「累進課税制度」について詳しく調べてみたところ、所得税は累進課税制度という方法をとっており、累進課税制度とは、所得や取得した財産が多いほど課せられる税率も上がる、という制度であった。例えば、所得全額三百万円の人に適用される所得税率が十パーセントなのに対し、所得全額三千万円の人に適用される所得税率は四十パーセントに膨れ上がるのだ。人々が負担する税を平等にするために取り入れられている制度だが、父のように、「稼げば稼ぐほど税金もとられてしまうから、仕事へのやる気をなくす」と考えてしまう人も少なくないだろうと思った。また、少子高齢化が進み、高齢者が多くなると共に働き手が減るため、高齢者を支えるために、少ない働き手で大きな税負担をかかえなければならぬ。その面で考えても、進んで仕事をする気力が失われていくのではないかと思う。税金はあつて当たり前だ、と思っていたが、所得税について調べてみて、働き手に想像以上の税負担がかかっていたことを知った。私が毎日三食の食事をとったり、学校や塾に通ったりするために使われているお金はとても貴重なものであることを実感した。今私が生活できていることに感謝の気持ちを持つのと同時に、これからの増税にどう向き合うべきか、将来に向けて考えなければいけないと感じた。